

私にも
言わせて!
第45回

保健所が
「地域を幸せにする組織」
となるように



香川県西讃保健福祉事務所次長(兼)香川県西讃保健所長

仁木 賢

昭和61年東北大学医学部卒業、小児科にて2年間臨床研修。平成4年東北大学大学院医学部研究科修了。東北大学医学部助手を経て、10年から16年間、アメリカ合衆国留学。26年11月香川県入庁。国立保健医療科学院での研修を経て、27年11月より現職。

35年ぶりに故郷に帰り公衆衛生医師になりました。明治時代に日本を旅した何人もの外国人が「日本人がとて子どもをかわいがることに驚いた」と記しています。そんな香川県にしたいと思っています。

昭和35年、僕は兼業農家の次男坊として香川県で生まれました。母校の校歌に歌われたとおり、「阿讃の山は遙かにて、清流綾川見下るせる」山すその人口約1万人(当時の)田畑がひろがる町です。僕の少年時代は、日本が子どもにとり一番良い時代だったと思っています。保育所時代は、僕の家のテレビを親に近所の方々が集まり、よそのおじさんの膝の上でプロレスを観ていた記憶があります。小学校に上がってからは、春休みはれんげ畑になつていた田んぼで三角ベース。夏になると、まだ学校にプールが無かったので、地域の方々が綾川をせき止めて、僕たちが泳げる場所を作ってくれ、交代で監視員になってくれました。そして兄と行った昆虫採集。

カフトンやクワガタ、トンボも蝶々も数え切れないくらいいました。そんな中、僕たちは育っていききました。あふれるほどの自然と地域の方々の愛情に包まれて。

Xさんのこと

小学校の3、4年生のころだったと思います。通学路にXさん(仮称)というお家があり、僕より5、6歳上のその家の子どもは「小児麻痺」といわれていました。ある日、3、4人の友達と小学校からの帰り道、Xさんの前を通りかかった時に、彼が脚をねじるようにして僕たちを追いかけてきたことがありました。僕たちは怖くなって走って家に逃げ帰りました。それから10年以上たち、医学部

4年生になっていた僕は、講義で「急性灰白髄炎(ポリオ)」について学びました。するとあの時のことが鮮明によみがえり、「僕はなんてことをしたのだろう。病気になることに彼には何の罪も無いのに。彼はきつと僕たちと友達になりたかった」と思っていました。でも僕は彼のことを気味悪がって逃げてしまった」と偏見をもったことに思い悩んでいました。そんな中、帰省していたある夜、そんな僕の悩みなど何も知らない母が語り始めました。「Xさんなあ、ワープロの学校出て、会社に行きよんで。会社では、ワープロのことはXさんに聞けと言われとるんや。Xさん、結婚して、子どももできてな。この前、スーバーでおうたけどな、子どもが欲しいものとかへトコトコと走って行ってな。後から二人でニコニコしながらゆっくり追いかけて行っ

公衆衛生医師として

香川県で出席した会議で、最も気になったデータは、香川県の子どもたちの自尊心の低さです。「自分には良いところがあると認めますか?」「将来の夢や目標をもっていますか?」という問いに、「はい」と答えた子どもは割合が、小中学校とも全国でほぼ最下位です。僕の少年時代はほとんどの友達も自信をもち、将来の夢をもっていたように思います。

もう一つ何とかしたいのは児童虐待のことです。香川県では平成16年度に317だった虐待相談対応件数が、26年度には727件と倍以上に増加しています。会議では自尊心の低さが十代の妊娠や出産に結びついているという説明がされていました。つまり児童福祉法でいうところの「特定妊婦」です。そして特定妊婦は児童虐待の加害者になる可能性が高いといわれています。自尊心の低さと児童虐待はつながっていることになり、香川の子どもたちには自信をもたせてあげたい。そして児童虐待をなくしたい。そのためには僕が子どもの時に感じたように地域の方が自分の子どもだけでなく近所の子どもたちにも関心をもち愛情をもって褒めたり叱ったりして子どもを育てる時代をもう一度取り戻したいと思っています。そして、香川の子どもたちは元気で生き生きしている、そんなふうを感じられるようにできないものかと思っています。

保健所とは

国立保健医療科学院での研修中

に、P・F・ドラッカーについて学ぶ機会がありました。『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーのマネジメントを読んだら』(岩崎夏海著)のドラッカーです。この本の中で野球部のマネージャー、川島みなみが「野球部の顧客とはだれか?」「野球部とは何か?」を悩む場面があります。なぜならドラッカーがこう記していたからです。「顧客はだれか」との問いこそ、個々の企業の使命を定義するうえで、もっとも重要な問いである。「自らの事業は何かを知る」とは、簡単にわかりきったことではないと思われ、かもしれない。鉄鋼会社は鉄をつくり、中略、銀行は金を貸す。しかし実際には「われわれの事業は何か」との問いは、ほとんどの場合、答えることが難しい問題である。わかりきった答えが正しいことはほとんどない。そしてみなみは「野球部の顧客とは、試合を見にくるお客さんではなく、高校野球に携わるほとんどのすべての人である」「野球部とは、野球をするための組織ではなく、顧客に感動を与えるための組織」という結論に達します。

では「保健所は何をする組織なのでしょう?」「地域保健法によるなら「地域住民の健康の保持及び増進を図る組織」ということになり、僕も一医師として住民の方に「病気を治して早く社会に戻ってほしい」という想いをもって生活することもありではないかとも思っています。「そんなことでは病気になるよ」「そんなことではよくなりませんよ」だけではなく、「病気をもっていても楽しく暮らせる」地域のほうがいいんじゃないか。そういうことを提案してあげられる保健所のほうがいいんじゃないかと。ドラッカー流に考える僕の保健所とは「地域を幸せにする組織」です。そして保健所の顧客とは、「地域住民の方々だけではなく、厚生労働省、県の健康福祉部や市町、病院、健康や福祉にかかわる方全員、そして保健所で働く我々。つまり健康、福祉に携わるほぼ全員」ということになりました。そして「幸せにする」と言うことと保健所の側から地域の方へということを考えがちですが、そうではないと思っ

真摯に、下問を恥じず

行政経験1年で保健所長を拝命いたしました。この道、20年、30年という方々と一緒に仕事をさせていただいています。知識の量ではかなう筈もありません。でも論理的に物事を考えるということに関しては決して劣らないようにと心がけています。最近、他人にモノを尋ねることをまったく恥ずかしいと感じない自分に気づきました。先輩の方でも、僕より若い方にも。そして尋ねると皆さん本当によく教えてくださいます。僕の唯一の強みとも言えるこのことを生かして、知識を増やしなから一つひとつの事例に、会議に、決裁書に真摯に取り組みることによって、理想の保健所をめざし、微力を尽くす所存です。